

ほろか 第2号

地域の生活を守る[幌加改良工事]のニュースターです。

より安全な国道451号をめざして

幌加改良工事の話



所長の田仲昌男です、

秋の輸送繁忙期に入り、皆様にはご迷惑をおかけしています。
より安全に工事を進めておりますので引き続きご協力をお願いいたします。

“現場は片側交互通行”で大変ご迷惑をおかけしています。



新十津川物語



フキちゃん
新十津川町の
マスコットキャラ
クターです。

122年前と同じような大災害が母村 奈良県「十津川村」
でおこなっていますが、語り継がれる開拓のドラマのすべて
が「新十津川物語記念館」に展示されています。

平成4年NHKドラマスペシャル「新十津川物語」が放
映され、高い視聴率で大反響だった言われています。

写真：NHK番組情報から

新十津川物語記念館
では撮影風景や原稿、衣装、ドラ
マのダイジェスト版を見ること、川
村文学にふれることができます。

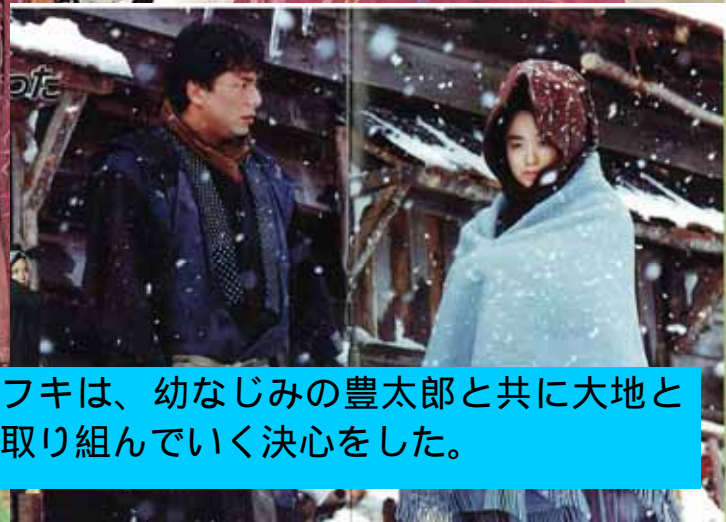
新十津川物語とは
主人公の津田フキ(9才)が明治22年
(1889)十津川村の大洪水に襲われ父母
を失いながら兄 照吉(17才)と新天地を
求め「新十津川村」と名付けた移住地で苦
難に満ちた開拓生活を始めた。ここからド
ラマが始まるのである。

新十津川物語 大正編



“新十津川物語記念館”の
大井けい子さんに伺いました。

フキは、幼なじみの豊太郎と共に大地と
取り組んでいく決心をした。



幌加改良工事と地域の話

国道451号の改良工事は、地域の物流はもとより地域振興などに安全安心をもたらしています。

酒米の里として「吟風」の生産と酒蔵「金滴」が地域を支えています。



図は、明治39年(1906)酒蔵創立当時の、酒造りのようすを描いたと言われている。

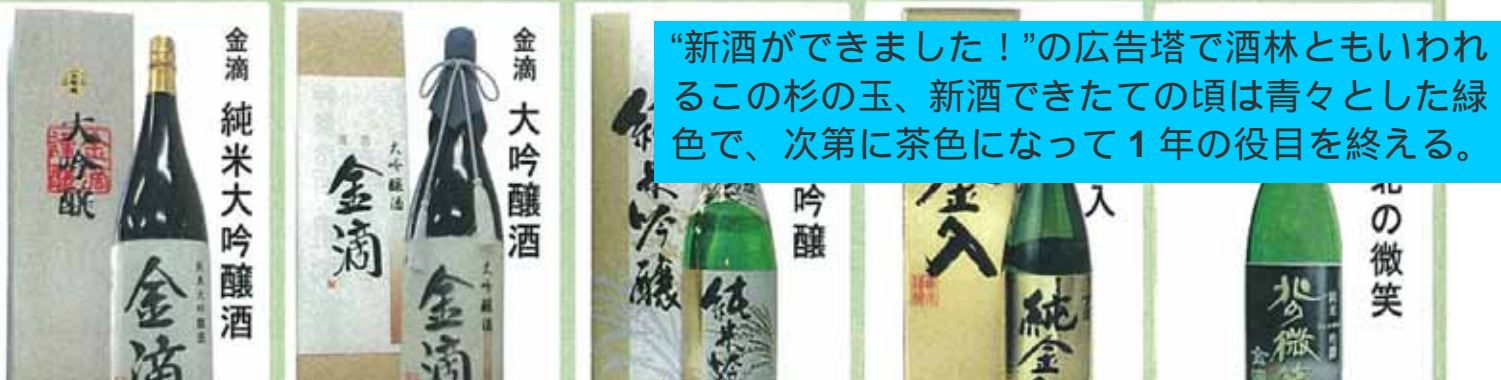


“創立105年 酒蔵の老舗金滴”の杜氏 川端慎治さんに伺いました。

酒蔵シンボルでもある、丸くて大きな杉の玉



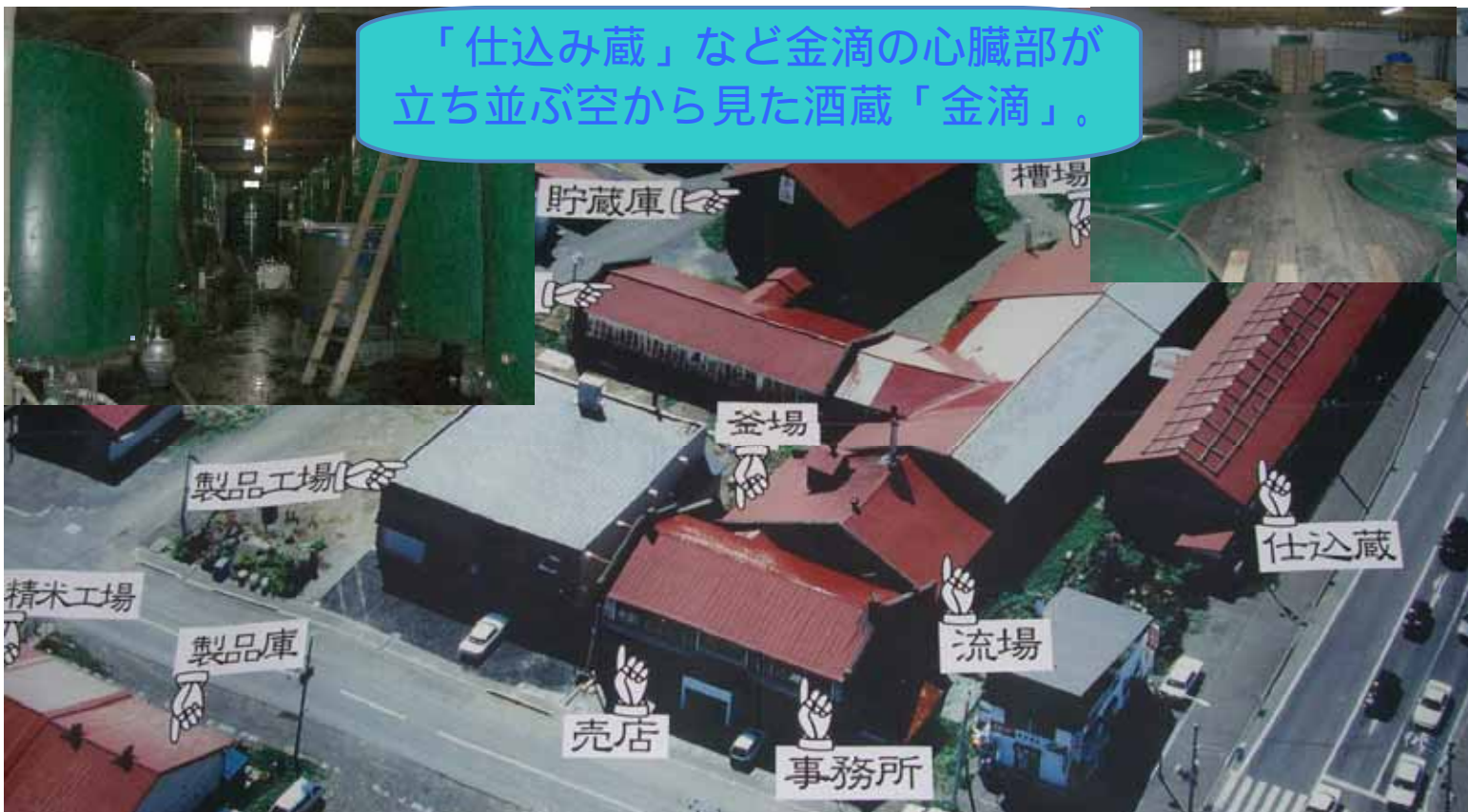
道外にはほとんど出荷していない小さな蔵ですが、酒蔵の脇を流れる徳富川の伏流水と、「地元産米」にこだわった良質の酒造りをしています



“新酒ができました！”の広告塔で酒林ともいわれるこの杉の玉、新酒できたての頃は青々とした緑色で、次第に茶色になって1年の役目を終える。

明治39年、新酒の“徳富川、花の雫”であるが現在31品目飲まれている。金滴の名は、大正7年ピンネシリ山麓の砂金川のキラキラ輝くことから「金の流れの滴」、「金滴」とした酒銘を使うこととなった、会社名も昭和26年から「金滴」に変えたものである。

「仕込み蔵」など金滴の心臓部が
立ち並ぶ空から見た酒蔵「金滴」。



酒米「吟風」は新十津川町で作付けされ、「2段 乾燥で15%」に仕上げるなど手間ひま掛けて作られている。

吟醸酒になるための酒米「吟風」と名付けられ、「心白」があり「タンパク質」が少ない品種である、「金滴」など11の酒造メーカーに出荷されているそうです。



好天に恵まれ黄金色に輝き
稲刈りを待つ「吟風」の風景。



「酒米生産組合」組合長の坂本実さんに伺いました。

ほろか

編集発行元 宮脇大木建設株式会社

このニュースレターはホームページでも公開しています

<http://www.kensonet.co.jp/miyawaki/>

平成23年 9月 31日